

## 1 新聞の見方

## ① 1つの記事の見方

- ・ 見出し  
記事の内容が一目で分かるよう、大きな字で短くまとめている。
- ・ リード  
記事の最初の1段落目のこと。最も重要なことをまとめており、ここだけでニュースの内容が分かるように書かれている。
- ・ 記事  
2段落目からの、くわしく内容が書かれた文章。できごとの流れや説明などを記載している。
- ・ 写真・グラフ  
文章より写真やグラフの方が事実をストレートに伝えることもある。

## ② 1面の見方

- ・ トップ記事（人の体にたとえて、「あたま記事」ともいう。）  
最も伝えたい記事。題字（〇〇新聞）のすぐ横に位置する。見出しも大きい。
- ・ 準トップ記事（かた）  
2番目に伝えたい記事。見出しは、あたま記事の次に大きい。
- ・ へそ記事  
3番目に伝えたい記事。見出しの大きさも3番目。

## 2 学校新聞を作る時のポイント

## ① 記事の書き方

- ・ 新聞では結論を先に書く。それは、最後まで読まなくても、短時間で読み手に伝わるようにするためである。
- ・ 5W1Hを忘れずに書く。いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように、をリードに盛り込む。ただし、その順番は、重要な順に変えてよい。
- ・ 2段落目以降は、2人の子どもがそれぞれ書いたものを組み合わせて、1つの記事にすることができる。
- ・ 1人称ではなく、客観的にとらえて書く。「ぼくは楽しかった」「私はうれしかった」ではなく、「みんな楽しんでいました」「Aさんはうれしそうでした」のように書く。
- ・ ちょっとした工夫（人の表情や様子などを盛り込む）で伝わり方が変わる。「～と話していました」より「～と拍手で祝ってくれました」のほうが、読み手がイメージ豊かに連想してくれる記事となる。

## ② 記事の順番の決め方

- ・ 学校ならではの自慢やアピールできるポイントを表すものを、あたま記事に。

- ・ その学校のことを知らない人に知ってほしいことは何だろうと、考えてみる。
- ・ 記事が出る時期なども考慮する。

③ 写真の選び方

- ・ テレビは映像で伝える。新聞が載せることのできる写真は限りがあるので、記事のテーマを1枚で伝えられるものを選ぶ。
- ・ 1枚決め打ちはよくない。たくさん撮って、その中から選ぶ。

④ 見出しの作り方

- ・ 短い方がいいが、何文字という指定はしない。
- ・ 必ず入れなければいけない単語を入れる。あとは、「どうだった？どんな様子だった？」と子どもに問いながらどんどん言葉を挙げて、組み合わせて決める。

3 新聞記事に関連して

① 日々の作文にもあてはまること

- ・ 書き手の思いや感じたことは、読み手にも伝わる。ちょっとした工夫を怠るとつまらない文章になってしまう。だから、おもしろかった、うれしかった、悲しかったなどの感情を大切に、伝えたいこと・感じたことを書く。

② 子どものよさを大切に

- ・ 学校新聞を作る時、新聞記者が調べ直すことはない。子どもたちが書いたことで記事ができ上がる。そのくらい、子どもは大人にはない視点で見えていたり、個性が反映されていておもしろいことを書いていたりする。